

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成17年5月26日(2005.5.26)

【公開番号】特開2001-268158(P2001-268158A)

【公開日】平成13年9月28日(2001.9.28)

【出願番号】特願2000-80155(P2000-80155)

【国際特許分類第7版】

H 04 L 29/08

H 04 L 1/00

H 04 L 12/50

H 04 M 11/00

H 04 N 1/00

H 04 N 1/32

H 04 N 1/387

【F I】

H 04 L 13/00 307C

H 04 L 1/00 E

H 04 M 11/00 303

H 04 N 1/00 106A

H 04 N 1/32 J

H 04 N 1/387

H 04 L 11/20 103A

【手続補正書】

【提出日】平成16年7月26日(2004.7.26)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【書類名】明細書

【発明の名称】ファクシミリ装置

【特許請求の範囲】

【請求項1】

自動応答機能およびCaller IDを検知する機能を有する外付け電話が接続されたファクシミリ装置であって、Caller IDを検知する手段と、検知したCaller IDにより相手先の通信機種を判断しうる手段を備え、前記外付け電話が1次応答した後に、前記Caller IDを検知する手段が、相手先のCaller IDを検知した場合、前記検知したCaller IDにより相手先の通信機種を判断しうる手段が、相手先の通信機種がファクシミリであると判断した場合には、CML(Connect Modem to Line)を切り替えてファクシミリ受信することを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項2】

Caller IDとそれに対応した通信機種の情報を記憶する手段を備えたことを特徴とする請求項1に記載のファクシミリ装置。

【請求項3】

Caller IDと対応した通信機種の情報をCaller ID毎に設定する手段を有し、機種の判断はその設定情報を基に行なうことを特徴とする請求項2に記載のファクシミリ装置。

【請求項 4】

受信時CNGを検知する手段と、その検知結果をCaller IDに対応して記憶する手段を有し、機種の判断は前記CNG検知の有無を基に行うことを特徴とする請求項2に記載のファクシミリ装置。

【発明の詳細な説明】**【0001】****【発明の属する技術分野】**

本発明は、ファクシミリ装置に関する。

【0002】**【従来の技術】**

従来、自動応答機能を有する外付け電話が接続されたファクシミリ装置では、相手方からの通信がファクシミリ送信であった場合でも、先に外付け電話で受信してしまって正常なファクシミリ受信ができない。その一方で、相手先からの通信が電話であった場合にも、ファクリミリが応答してしまうこともあった。

【0003】

このように、従来装置では、通信の相手先に適応した電話／ファクシミリの切り替えが瞬時に行えず、最適な通信手段の切り替えにはある程度の時間を要するものであった。

【0004】**【発明が解決しようとする課題】**

本発明は、自動応答機能を有する外付け電話が接続された状態であっても、相手方の通信機がファクシミリであると判断した場合には、良好な状態でファクシミリ受信できるファクシミリ装置を提供することを目的とする。

【0005】**【課題を解決するための手段】**

上記目的を達成するために、本発明によるファクシミリ装置は、次のような特徴を備えている。

【0006】

本発明は、自動応答機能およびCaller IDを検知する機能を有する外付け電話が接続されたファクシミリ装置であって、Caller IDを検知する手段と、検知したCaller IDにより相手先の通信機種を判断しうる手段を備え、前記外付け電話が1次応答した後に、前記Caller IDを検知する手段が相手先のCaller IDを検知した場合、前記検知したCaller IDにより相手先の通信機種を判断しうる手段が、相手先の通信機種がファクシミリであると判断した場合には、CML(Connect Modem to Line)を切替えてファクシミリ受信することを特徴とする。

【0007】**【発明の実施の形態】**

以下、図面を参照して、本発明の実施の形態を詳細に説明する。

【0008】**実施の形態**

図6は実施の形態にかかるファクシミリ装置の接続例を示す概念図である。

【0009】

このファクシミリ装置(図ではファクシミリ機能を備えた複合機を示す)1には、自動応答機能(留守番電話機能)およびCaller IDを検知する機能を有する外付け電話2が接続される。そして、ファクシミリ装置1は局交換機3を介して相手方のファクシミリ装置4と接続される。ファクシミリ装置1は、相手機のCaller IDとそれに対応する機種情報を記憶する手段と、受信したCaller IDにより相手機種を判断しうる手段を備えている。

【0010】

実施の形態のファクシミリ装置では、予めユーザーにより発呼側のCaller ID

に対応する機種情報を入力されており、記憶されており、図7に示すように、着信があると、外付け電話が1次応答（ステップST31）した後に、相手機のCaller IDを検知（ステップST32）し、相手機がファクシミリであるか否かを判断する（ステップST33）する。ここで、相手機がファクシミリであると判断した場合には、CML（Connect Modem to Line）をファクシミリに切り替えて（ステップST34）、ファクシミリ受信が開始される。一方、相手機がファクシミリでないと判断した場合には、CMLの切替えは行わずに（ステップST35）、外付け電話で受信される。

【0011】

実施の形態のファクシミリ装置は、相手機のCaller IDとそれに対応する機種情報を記憶する手段を備えているため、受信したCaller IDにより相手機種を判断する処理（ステップST31からステップST35までの処理）を瞬時に行い、正常なファクシミリ受信を可能とする。

【0012】

以下、図8に示すシーケンス図を用いて実施の形態にかかるファクシミリ装置の動作を説明する。

【0013】

まず、交換機からの1次呼び出しがあると、外付け電話2が1次応答する。この後に、交換機からのCaller IDが検知される。このCaller IDにより相手機がファクシミリであると判断した場合には、次の交換機からの2次呼び出し時に、CMLをファクシミリに切替え、ファクシミリ装置1で応答し、ファクシミリ受信が開始される。

【0014】

【発明の効果】

本発明によれば、自動応答機能を有する外付け電話が接続された状態であっても、相手先の通信機がファクシミリであると判断した場合には、良好な状態でファクシミリ受信できるファクシミリ装置を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 実施の形態にかかるファクシミリ装置の接続例を示す概念図である。

【図2】 実施の形態のファクシミリ装置の動作を説明するためのフローチャートである。

【図3】 実施の形態のファクシミリ装置の動作を説明するためのシーケンス図である。

【符号の説明】

- 1, 4 ファクシミリ装置
- 2 外付け電話
- 3 局交換機
- 1 1 搬送スキヤナ部
- 1 2 画像記憶部
- 1 3 拡大縮小部
- 1 4 スムージング部
- 1 5 参照画像情報記憶部
- 1 6 スムージング後画像情報記憶部
- 1 7 NCU
- 1 8 プリント部

【手続補正2】

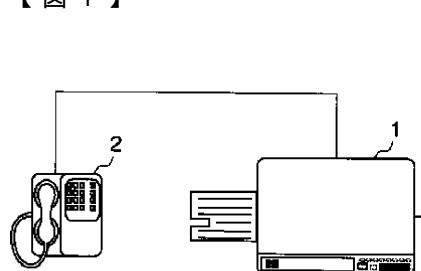
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】全図

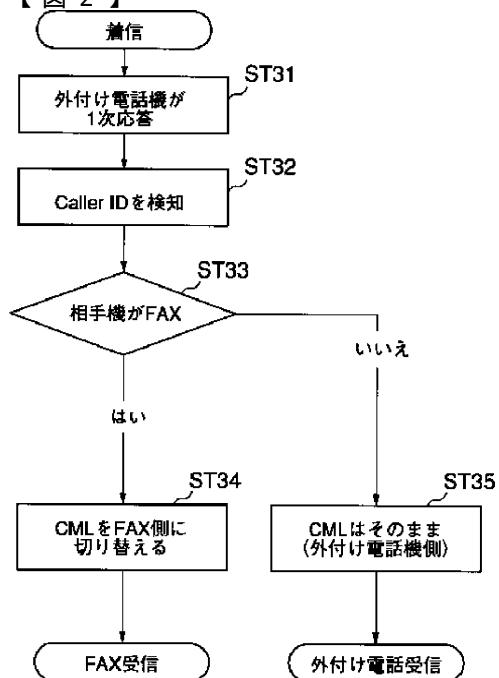
【補正方法】変更

【補正の内容】

【図1】



【図2】



【図3】

